



からだところろ

桑原 博
(大阪)

左目がコナラ右目がアラカシで構はないだろ違ってゐても

両耳が同じ水平線上になく眼鏡がねぢれ顔もゆがめり

ALITの数値が上がり再発の分れ目に立つまたかと思ふ

左側にボタンがあつてもいいぢやない男の歴史がすこし変はつて

反動をつけずくううとヒラメ筋引つぱつてから走るかならず

リミッター心はもちて走れぬと言へど体はゴールにとどく

骨盤をかへてくれそんな感覚だ走つたあとにやつてくるのは

ポプラの木的心脏葉がざわめいて一人でないと打つものがあり

道管あり大動脈あり師管あり大静脈あり音小さけれど

心臓とふ熟語のなかに心あり妙にどきどきすると思へば

心臓を象る心の三つの点落ちてきさうでもうくづれるぞ

プシユケーに心の意味が生まれきて心とは何か問ひかけてくる

「向上心のない者は馬鹿だ」と言つた人言はれた人の心を思ふ

リチャード三世が雇ひし暗殺者の良心の滓は消えず残りぬ

心などすくひあげるな邪魔なだけ水母のやうにゆらりゆれゐる

このごろの私

今年が最後と言いつつ、続いているマラソンへの参加。コロナで中断もあるけど。ヘルニアも出て12月が最後になりそう。練習でふらふらの毎日です。終わったら短歌にもっと時間をかけたいです。



白山風露

榎本久美子

(山形)

このごろの私
愛車バジエロミニと付き合
い始めて十年目になる。気取
ったスカートや着物には、少
し高めの車体は不似合いだが、
大好きな里山の道や冬の庄内
路には随分救われた。あと少
しのデートを味わっている。

頂にわづかの雲がかかりをり遠き記憶の中のわたくし

一九七四年三月一日鳥海山が約一五〇年ぶりに噴火

「鳥海山が噴火した」屋上に友とざわつく高一の春

女子校の古き二階の一角に「山岳部」とふ表札が見ゆ

卓球部と親に告ぐるも放課後のテント設営コツをつかみき

すくむ足なかなか外せぬ垂直な非常階段ザイル訓練

キスリングの重さはいつも公平な最初はグーのじゃんけんで決む

傘地にてシユラフカバーとスパッツは部員手作りの経費削減

列をぬけ「お花を摘んできます」とふ山での合図用を足すとき

書取りの漢字かけあふ山小屋のめぐりに咲きし白山風露

四泊の朝日連峰縦走の褒美に泳ぐ大鳥池に

もう二度と登らぬと言ふ人にまた登りたいなあと言はせる不思議

足指に真綿と七味唐辛子履くは耐寒研究のひとつ

「山ガール」ちまたに流行るを垢抜けぬ山岳部員はまだ知らざりき

棚隅に並ぶふたつの山靴の底に残るはどこかの小石

「ナンバーは８８４８エベレスト」中古の愛車夫の夢乗す